



(画像1)モスクワ芸術座のメンバーに『かもめ』を読むアントン・チェーホフ



(画像2)同じ写真でメイエルホルドの姿が消されている

芸術は批判にさらされ、活動の場が奪われていきます。一九三七年のスターリンによる大粛清を頂点として、多くの芸術家たちが処刑あるいは強制収容所に送られました。メイエルホルドも一九四〇年に銃殺されています。粛清の悲劇は、不条理に生命が脅かされるということに加え、歴史／記録から抹殺されるということが挙げられます。例えば、演劇史において非常に有名な「モスクワ芸術座のメンバーに

『かもめ』を読むチェーホフ」という写真があります。オリジナルでは、メイエルホルドは右端に座っていますが(画像1)、粛清後に公に用いられた写真では、彼がいないことになっています(画像2)。公の場でメイエルホルドに言及することも禁じられました。

復までの十五年間という空白の時間に、彼に対する正当な評価は失われてしまっていました。一九六〇年代以降には、ロシア国内を中心にメイエルホルドのアーカイヴを掘り起こし彼を再評価する流れが出てきます。それから現在に至るまで、ロシア国内外でメイエルホルドに関するさまざまな研究書が刊行されてきました。しかし、それでも、いまだ彼の活動の全貌が明らかになつたとは言えない状況にあります。一九九一年のソ連解体



メイエルホルド演出のゴゴリ作『査察官(検察官)』(1926年)

後には、アーカイヴ資料が外国人にも開かれるようになり、現在、私と同世代のロシア文化研究者たちは積極的に図書館に通い、刊行されていない一次資料を素材にロシアの文化史を書き起こしています。

こうした研究に携わりながら実感することは、歴史は語られることで紡がれるということです。過去の研究者たちが明らかにしてきた歴史を踏まえつつ、新たに発掘された資料に基づいて、その対象と

なった時代の解像度を上げる、あるいはこれまで語られてきた歴史を別の角度から見ることによって、新たな側面を浮かび上がらせる。それは単に過去の出来事を考察するということだけではなく、歴史を通して現代を見直す、あるいは「人と社会」という一般的な問題まで敷衍して考察するということでもあります。複雑な歴史を研究することは、複雑な現代ロシアにおける芸術と社会の関係を考察することにもつながりうると思っています。

# 研究最前線

THE FRONT LINE OF RESEARCH

文学部

## ロシア・アヴァンギャルド演劇の「歴史」



PROFILE

伊藤 愉  
ITO Masaru

文学部専任講師  
専門：ロシア演劇史、日露文化交流史

1982年 京都生まれ  
2015年 一橋大学大学院言語社会研究科博士課程単位取得退学  
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター非常勤研究員、早稲田大学演劇博物館助手を経て現職

主な著書・論文  
グリゴリー・ガウズネル『見知らぬ日本』(翻訳)共和国、2023年(※)  
『歌舞伎と革命ロシア——一九二八年左団次一座訪ソ公演と日露演劇交流』(共著)森話社(2017)  
キャサリン・ブリス・イートン『メイエルホルドとプレヒトの演劇』(共編訳)玉川大学出版部(2016)  
『佐野碩 人と仕事——1905-1966』(共著)藤原書店(2015)  
エドワード・ブローン『メイエルホルド 演劇の革命』(共訳)水声社(2008)など

所属学会  
日本ロシア文学会、日本演劇学会など

※P64-65「明大教職員・校友の刊行物案内」で紹介しています

およそ一〇〇年前のソヴィエト連邦では、ロシア・アヴァンギャルドという前衛的な芸術運動が展開されていきました。一九一七年にロシア革命が勃発、政治的な革命と前後して「芸術の革命」が起こります。演劇の分野では、フセヴォロド・メイエルホルドという演出家が、サーカス、民衆演劇、イタリア仮面劇

歌舞伎や京劇などの東洋演劇といった要素をさまざまに取り入れ、ダイナミックな作品をつくり出していました。私は、このメイエルホルドの活動を中心に、二〇世紀前半のロシア演劇と社会の関係を研究しています。

史上初の社会主義国家を建設したソ連においては、「新しい社会」や「新しい観客」が同時代的テーマとして浮かび上がっていました。「新しい演劇」を担う人々は、心理的にも身体的にも観客に直接的に働きかけ、社会性をうたうパフォーマンス。例えば、一九二〇年代後半に構

想されていたS・トレチャコフ作『子どもが欲しい』では、女性の社会進出という同時代的なテーマが中心となり、「家族制度の解体」や「優生学的議論」などがラディカルに舞台上で語られ、観客は上演後あるいは上演中でも議論に参加する「討論劇」の形態が考案されていました。

しかし、一九二〇年代後半から一九三〇年代にかけてこうした前衛